

今日は黙示録5:8-14から「子羊の礼拝」と題して3つの点でみことばを取り次ぎます。

1. 4つの生き物と長老たちの礼拝 8-10

先週は5章前半の、子羊イエスが父なる神から巻物を受け取ったことを見ました。この巻物にはこれから起こる神の計画が記されています。しかし最初、巻物を開くのにふさわしい者がいないことを知ったヨハネは激しく泣きました。けれども神の御座の前で立っている屠られた子羊イエスが、巻物を開くことができると告げられ、イエスが巻物を父なる神から受け取りました。イエスは6章からこの巻物の封印を一つずつ解き、未来に起こる出来事が現わされていきます。今日は5章の後半です。ここには子羊イエスの礼拝が記されています。

「8巻物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老たちは子羊の前にひれ伏した。彼らはそれぞれ、豎琴と、香に満ちた金の鉢を持っていた。香は聖徒たちの祈りであった。」イエスが父なる神から巻物を受け取った時、天で子羊イエスへの礼拝が始まりました。まず4つの生き物と24人の長老たちが子羊の前にひれ伏しました。4つの生き物は4章で父なる神を礼拝したのと同じ御使いです。24人の長老はすべての神の民を象徴しています。彼らが持っていた豎琴は、イエスを賛美するための楽器です。また香は聖徒たちの祈りでした。香が金の鉢に入れられていたとは、聖徒たちの祈りは神の前に高価で大切なものだということです。神は私たちの祈りを大切に価値あるものとして聞いてくださるのです。彼らは賛美と祈りをもって主イエスを礼拝しました。

「9a 彼らは新しい歌を歌った。「あなたは、巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方です。」彼らが歌う新しい歌とは、罪人の贖いを成し遂げられたイエスへの賛美です。彼らは「あなたは、巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方です」と歌いました。そしてその理由を9節後半から歌います。

「9b あなたは屠られて、すべての部族、言語、民族、国民の中から、あなたの血によって人々を神のために贖い、10 私たちの神のために、彼らを王国とし、祭司とされました。彼らは地を治めるのです。」原語では9節後半の最初に「なぜなら」という言葉があります。ですから9b-10節は、イエスが巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方だという理由が記されています。その理由はイエスが贖いを成し遂げられたということです。イエスは贖いを成し遂げるために、屠られました。すなわちイエスは十字架につけられ、ご自分の血によって、人々を神のために贖ってくださったのです。その人々はすべての部族、言語、民族、国民の中に住んでいます。贖いは、元々はだれかが代価を払って奴隷を開放し、自由にすることを意味します。私たちはみな罪の奴隷でした。イエスは私たちを罪の奴隷から解放し、神の民とするために、ご自分のいのちを代価として払い、その血を流して私たちの罪を赦してくださったのです。

さらにイエスは、私たちを神のために、王国とし、祭司とされました。それは私たちが神の王国の一員とされたことであり、神に仕える祭司とされたということです。クリスチャンは今、神の王国の一員としてこの世に遣わされています。ですから、私たちには神のみこころをこの世に実現する使命が与えられています。そのためにはみこころが何かをみことばから知ることが大切です。そして祈りをもって、神に喜ばれる働きをするのです。また祭司として、この地でも神を礼拝し、さらにイエスが成し遂げられた贖い、救いの福音を人々に伝える使命が与えられています。

さらに「彼らは地を治めるのです」とあります。創世記1:28で、神はアダムとエバを祝福し言われました。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」これは文化命令とも呼ばれます。神は人間にこの世界を神のみこころに従って治める使命を与えられました。ところが、罪を犯し墮落した人間は、神中心ではなく、人間中心にこの世界を支配した結果、環境破壊が進み、その結果を人間が被るようにもなりました。神は救われた私たちに、再び神のみこころにかなってこの地を治める使命を与えておられます。さらに終末時代には20章に見る千年王国と言われる時代に、イエスとともに地を治める時が来ます。このようなすばらしい救いをイエスが成し遂げられたので、イエスだけが巻物を受け取り、開くのにふさわしい方なのです。私たちも屠られた子羊イエスを賛美する新しい歌をもって、主を礼拝しましょう。

2. 御使いたちの礼拝 11-12

11-12節は天の御使いたちがイエスを礼拝する姿です。「11 また私は見た。そして御座と生き物と長老たちの周りに、多くの御使いたちの声を聞いた。その数は万の数万倍、千の数千倍であった。」天の御座と生き物と長老たちの周りには、数えきれないほどの多くの御使いたちがいました。

「12 彼らは大声で言った。『屠られた子羊は、力と富と知恵と勢いと誉れと栄光と賛美を受けるにふさわしい方です。』」私が教団の補教師になりたてのことだったと思います。すでに召されたある先輩牧師が教団総会で祈られた時、「屠られた子羊は、力と富と知恵と勢いと誉れと栄光と賛美を受けるにふさわしい方です」と祈り始めました。そのことが大変印象的で今も覚えています。この牧師は、黙示録の御使いの賛美を暗唱して、いつも祈りの中でイエスを賛美しておられたのだと思います。

す。最近では私もこのみことばにメロディーをつけて覚えています。

まず「屠られた子羊」です。黙示録にはイエスのことを28回子羊と呼んでいます。旧約聖書では子羊は神にささげる犠牲のいけにえです。罪を犯した者の罪を代わりに背負い、祭司が子羊を屠り、その血を流して罪の贖いをしました。旧約の子羊は、やがてすべての人の罪を負って、身代わりに死に、贖いを成し遂げる救い主を預言していました。その預言通り、イエスが救い主としてこの世に来られ、私たちの罪を負い、身代わりとなって十字架で死んで、罪の贖いを成し遂げられました。そして三日目によみがえり、天に上り、今も天で生きておられます。ですから屠られた子羊は神の御前で立っておられるのです。

このイエスに御使いは7つのことばをもって賛美しました。1つ目は力です。イエスが十字架につけられた時、人々はイエスは敗北し、イエスを十字架につけた人々が勝ったと思いました。けれどもイエスが十字架で死に、よみがえったことにより、イエスはすべての人を罪から贖い、救い出す力を持たれました。「この方以外には、だれによっても救いはありません」という、救いの力をイエスは持っておられます。2つ目は富です。イエスは全世界、全宇宙の所有者であり、すべてのものを持っておられます。さらにイエスを信じる者に、あらゆる霊的祝福を与えることができるお方です。

3つ目は知恵です。イエスは神の知恵を持っておられ、求める者に与えてくださいます。4つ目は勢いです。勢いは力を表す言葉ですが、特に周りのものを圧倒するような強さや力です。イエスは圧倒的な力をもって、この世界を治めておられます。5つ目は誉れです。誉れは尊敬に値する価値あることです。イエスは神の御子であるのに人となって十字架で死に、私たちの救いを成し遂げてくださいました。それゆえに私たちはイエスに誉れあれとたたえます。

6つ目は栄光です。イエスの栄光は神のひとり子としての栄光であり、さらに十字架でのちをささげてくださいました栄光です。十字架にイエスの栄光が現わされました。なぜなら、十字架の死によって救いの道が開かれたからです。7つ目は賛美です。神の御子が屠られた子羊となり、よみがえって神の御前に十字架の傷跡をもって立っておられます。このお方こそ賛美を受けるにふさわしい方です。ですから私たちも「屠られた子羊は、力と富と知恵と勢いと誉れと栄光と賛美を受けるにふさわしい方です」とイエスを賛美しましょう。

3. 全被造物の礼拝 13-14

最後に全被造物の賛美です。「13 また私は、天と地と地の下と海にいるすべての造られたもの、それらの中にあるすべてのものがこう言うのを聞いた。『御座に着いておられる方と子羊に、賛美と誉れと栄光と力が世々限りなくあるように。』」

創世記1:27には「神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった」とあります。神のかたちには造られた人間だけが非常に良かったのではなく、全被造物を非常に良いものとして造られたのです。ところが人間が罪を犯して墮落した結果、他の被造物も罪の影響を受けてしまいました。創世記3:17には「大地は、あなたのゆえにのろわれる」とあり、人間が罪を犯す前と後では、自然も動物も植物も罪の影響を受けて変わってしまったのです。その結果、自然災害が起きますし、人間も自然破壊をしてしまいました。けれども神は人間の救いだけでなく、全被造物の救いも計画してくださいました。

ですからローマ8:20-21にはこうあります。「被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに生みの苦しみをしています。」今はすべての被造物はうめき苦しんでいるが、やがて神の子どもたちとともに神の栄光にあずかるのです。13節はまさに神の栄光にあずかった被造物が天で礼拝している姿です。彼らは父なる神と子羊イエスを礼拝しています。全被造物は先ほど御使いがイエスを賛美した7つのうちの4つをもって「賛美と誉れと栄光と力が世々限りなくありますように」と賛美して礼拝しました。

「14すると、四つの生き物は「アーメン」と言い、長老たちはひれ伏して礼拝した。」アーメンは、真実、まことという意味です。4つの生き物はアーメン、まことですよと、御使いたちと全被造物の賛美に心を合わせました。そして長老たちも神と子羊の前にひれ伏して礼拝しました。

今日、クリスチャンが環境問題に取り組むことの大切さが教えられています。最近ではそのことを被造物ケアと言います。なぜ被造物ケアが大切なのかの理由の一つを、今日の個所から見ることができます。それは、神の救いは人間だけではなく、全被造物にも与えられるからです。もちろん動物や植物は人間のようにイエスを信じて救われるわけではありません。けれども、神は人間の罪の影響を受けている被造物も大切な存在として救おうと計画しておられます。神の目には人間だけでなく、ご自分が造られたあらゆる被造物も尊い存在なのです。自然も動物も植物も、やがて天ではともに神を賛美する私たちの仲間です。だからこそ、その神のみこころを知ったクリスチャンは、天で共に主を賛美する仲間であるすべての被造物を、神のみこころにかなって正しく治め、大切にすることが求められているのです。私たちも天で御使いと全被造物とともに神を礼拝する時を期待して待ち望みましょう。そして今地上にあっても、心からの礼拝を神と子羊イエスに献げ、神のみこころを地で行う者として遣わされましょう。